2023年［令和5年度］ Exhibitions 2023－2024

4月(2023) 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月(2024) 2月 3月

■企画展

川島理一郎展
―描くことは即ち見ること
KAWASHIMA Riichiro: A Retrospective

4月15日［土］－6月18日［日］

足利市出身の画家・川島理一郎（かわしまりいちろう1886-1971）の没後50年をむかえ、その画業を顕彰する回顧展を開催します。川島は若くしてアメリカに渡って美術を学び、フランスをはじめとするヨーロッパやアジア諸国、日本国内を旅して制作しました。近代美術が新たに展開した20世紀初めのパリで、画家や文化人らと広い交友関係を結び、自身のスタイルを確立していきます。日本に帰国後は、若い画家たちを育て、国画会や日展などを中心に作品を発表し、画壇での影響力も持ちました。本展では、色彩豊かな滞欧期の作品から晩年ののびやかな抽象画を紹介し、川島の画業をたどります。

川島理一郎
《アダムとイブ（人生）》
1921年　株式会社大林組蔵

川島理一郎《カナル風景》
1925年　個人蔵

一　般：900（800）円
大高生：600（500）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金
＊6月10日（土）、11日（日）、15日（木）は県民の日関連につき観覧料無料

今日の彫刻―
冨井大裕展
Motohiro Tomii : Sculptures

7月8日［土］－9月3日［日］

冨井大裕（とみいもとひろ 1973- ）は、多種多彩な道具類などに、積み上げる、並べる、重ねる、束ねるなどのシンプルな日常的行為を付加することによって、彫刻の新たな様相を現前させます。
こうして彫刻家の能動性と鑑賞者の受動性は中動的に開かれ、美術館と家庭、学校、オフィスなどの社会全体が、等価で脱機能的な自由の場として再生されます。
誰もが彫刻家になりうることの可能性を問いかける、冨井大裕の新作を中心とした約45件の彫刻とともに、私たちの持つ創造性を解放する機会を探ります。

©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
冨井大裕
《メロー#2》
2020年
撮影：柳場大

©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
冨井大裕
《旅行者の制作#2》
2017年
撮影：加藤健

一　般：1,000（900）円
大高生：600（500）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金

第77回
栃木県芸術祭美術展
洋画・彫刻・工芸
77th Tochigi-ken Art Festival, Fine Art Exhibition
Painting in Western Style, Sculpture, Craft

9月23日［土・祝］－10月5日［木］

県内公募の入選・入賞作品を招待作品とともに展示します。

洋画、彫刻、工芸部門を当館で、日本画、書道、写真部門を栃木県総合文化センターで展示します。
（10月28日［土］－11月7日［火］）

お問合せ先
栃木県文化協会
宇都宮市本町1-8
（栃木県総合文化センター内）
電話028-643-5288

一　般：260（200）円
大高生：120（100）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金

栃木県誕生150年記念
下野新聞創刊145周年記念
文晁と北斎
―このふたり、ただものにあらず
BUNCHOU and HOKUSAI

10月21日［土］－12月24日［日］

江戸後期に活躍した2人の絵師、谷文晁（1863-1840）と葛飾北斎（1860-1849）はほぼ同時代を生きています。若い頃、老中松平定信（1742-1829）付となり、幕末の緊迫した沿岸情勢のため、また各地の古物調査のためにその要請に応え、後に一家を成した文晁。凶作や飢饉による内政不安のための政策である奢侈禁止にあえぐ民衆を魅了した奇才絵師北斎。官と民の両雄ともいえる二人の絵師の魅力を話題作や新出作品を含めて紹介します。
共催：下野新聞社

谷 文晁
《青緑赤壁図》
1826年　個人蔵

葛飾北斎
《神奈川沖浪裏》『冨嶽三十六景』
1830年頃　大田区立龍子記念館蔵

一　般：1,000（900）円
大高生：600（500）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金
＊11月3日（金）［文化の日］は観覧料無料

春陽会誕生100年
それぞれの闘い
岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ
The 100th Anniversary of the Shunyo-kai: Painters' Struggle for Production

2024年1月13日［土］－3月3日［日］

1922年、小杉未醒、山本鼎、森田恒友、長谷川昇らと、岸田劉生らを中心としたメンバーによる、画家の自由な活動を支援する団体、春陽会が発足しました。西洋の最先端の美術動向に敏感でありながら、東洋的なもの、日本的なものへの志向を特色とし、油彩だけでなく、版画や挿絵など多岐にわたる創作発表の場を提供しました。本展は、誕生から100年がたつのを記念し、中川一政や岡鹿之助らも含め、春陽会の花形となった画家たちの名品を紹介します。

木村荘八
《河岸夜（明治一代女）》
1936年頃
東京ステーションギャラリー蔵

小杉放菴
《松下人》
1935年 栃木県立美術館蔵

一　般：1,000（900）円
大高生：600（500）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金

■コレクション展

所蔵品により、栃木県および国内外の近現代美術を中心とした作品を年4回の展示替えで紹介。

一　般：260（200）円
大高生：120（100）円
中学生以下無料
（ ）内は20名以上の団体料金
企画展観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

Collection 1

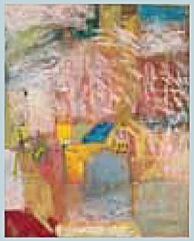
小室翠雲
《賦色紫桐丹鳳図》
1939-45年頃

コレクション展Ⅰ
田﨑草雲・小室翠雲
―関東南画の源流

4月15日［土］－6月18日［日］

関東南画壇の礎を築いた足利出身の田﨑草雲とその弟子・小室翠雲の作品を特集するとともに、石川寒巌・大山魯牛にまで至る新南画の潮流を紹介します。

Collection 2


関谷富貴
《題名不詳》
1950-60年代

コレクション展Ⅱ
美術館に行ってみよう！

7月8日［土］－10月5日［木］ ※9月4日［月］－22日［金］は休館

子どもから大人まで、美術館が初めての方にも楽しんでいただけるよう、鑑賞のヒントとともに所蔵作品を紹介します。

Collection 3

リチャード・ドイル
『妖精の国にて』
1875年

コレクション展Ⅲ
木版画の表現

10月21日［土］－12月24日［日］

学校でも習う私たちに身近な木版画。板目木版や木口木版、拓版画など様々な木版画の表現を紹介します。

Collection 4

加守田章二
《面体炻壺》
1969年
撮影：江崎義一

コレクション展Ⅳ
かたちのチカラ

2024年1月13日［土］－3月3日［日］

素材の特性を生かしたミニマルな造形美は工芸の魅力のひとつです。かたちと素材の魅惑の世界を紹介します。